



さとう・はるか／秋田市生まれ。慶應義塾大学環境情報学部4年。4歳から百合保育園一輪車クラブ(秋田市)で活動後、新百合丘一輪車クラブ(神奈川県川崎市)に移籍。今年7月の全日本一輪車競技大会で総合優勝(ペア演技部門)。現在、公益社団法人日本一輪車協会の公認指導員として、国内外の小学生への指導や、地区大会の審査員等を務める。各種メディアで活躍中。2017ミス・ユニバース・ジャパン秋田大会特別賞を受賞。

一輪車と共に

佐藤 春佳 (平成26卒)

一輪車といえば、小学生の時に乗ったことがある人も多いのではないのでしょうか。私はその一輪車を、競技として4歳から始めました。ドレスを身にまとい、音楽に合わせて踊りながら技術力と表現力を競う一輪車は、まるでフィギュアスケートのようです。初めのうちは上手に乗れることがうれしく、毎日練習というより楽しむために乗っていた気がします。

そんな私に初めて転機が訪れたのは8歳の時。先輩方に混ざり初めて全国大会に出場し、特別賞をもらいました。この経験で自分の一輪車スキルを披露できることの素晴らしさを知り、競技としての一輪車の魅力に引き込まれていきました。

その後小学生、中学生の時にソロ演技ジュニア部門優勝、そして高校生の時にはシニアの部でのソロ全国制覇、団体で全国3連覇、ペア世界大会優勝と自分自身でも驚く結果を収めました。

そしてもう一つ私の一輪車人生の転機となったのは、「EXILEのライヴツアーへの参加」でした。学業もある中での全国ツアーだったため周囲の反対もありましたが、最終的には参加を許してくれた先生方や両親には非常に感謝しています。その経験で競技だけではなく、エンターテインメントとしての一輪車を初めて感じ、無限の可能性があると思うようになりました。

現在は競技者としてはもちろん、パフォーマーや指導者としてさまざまな方向から一輪車の発展の一助になるよう努めています。特に指導では、国内のみならず韓国の子供たちにも行き、競技人口という分母を増やすことで一輪車の認知度を上げようと試みています。

一輪車は私が行っている演技や競技としてはまだまだマイナーであり、遊具としての認識が強いことも事実です。しかし私には「いつか一輪車をオリンピック競技に」という思いがあります。そのために自らの経験を還元し一輪車を少しでも多くの方に知ってもらえるよう、今後も活動を続けていきたいと思っています。

今、まさに問われる日本の英語教育

ウェブリオ株式会社代表取締役 辻村 直也 (平成12卒)

世界のグローバル化が急速に進みつつある昨今、日本は英語コミュニケーション能力の不足という課題を抱えています。

すでに現在、日系企業の海外拠点は7万拠点以上、海外に在留する日本人は130万人以上にのぼります(2015年、政府調べ)。年間の訪日外国人観光客は昨年2千万人を突破しています。東京23区の人口合計(約921万人)の倍以上ですから、その規模の大きさがうかがえます。

日本政府も英語教育の充実には真剣に取り組み始めています。学校では小学校から英語の授業が始まり、しかも読み書きに加えて「話す」部分にも重点が置かれるようになってきました。ALT(外国語指導助手)が授業に参加する頻度も年々充実しています(私たちの頃はあったかどうか怪しかった記憶があります……)。大学入試センター試験も刷新されます。今まさに英語教育の環境は改革の真っ最中です。

英語の習得には、学力や偏差値の良し悪しは関係ありません。ただし、膨大な学習量がどうしても必要です。ある調査によれば、日本人が英語を習得するには2000~3000時間程度の学習が必要ともいいます。

また、英語はやはり実践で使ってこそ身につくものです。私の場合、英語雑誌の定期購読などで英語の知識を積んでいたつもりではありますが、実際に英語が身につき始めた実感できたのは、社会人になってから、英語で会話しなくてはならない状況に直面してからでした。

面白いことに、英語の知識が増えれば増えるほど、日本語に対する理解も深まっていきます。日本語は文章の自由度が高く、日本人でさえ使いこなすことの難しい言語です。英語の論理を学ぶことは、情報を正しく伝達する方法を学ぶことにもつながります。

今の日本にとって、英語の習得は、国際的な競争力を高めるといっただけでなく、より時代に即したコミュニケーションの方法を知り、日本の伝統的な感性を再発見し、日本人としての自覚や自負を取り戻すためにも非常に大切な取り組みです。私も英語学習支援サービスの提供を通じて、めいっぱい応援できればと思っています。



つじむら・なおや／湯上市生まれ。立命館大卒。同大卒業後、事業内容を定めて株式会社を設立。その後、事業をネット上の無料辞書サービスに定めてWeblio(ウェブリオ)を創業。創業13年目となる現在、1秒間に300アクセス、社員約100人を抱え、新宿本社以外に名古屋、京都、福岡、大分、そしてフィリピンに支店を持つ。